

▶調査概要

■調査の目的

新バスシステムに関し、皆さんがどのような点に疑問や懸念を持っているかを把握し、それらの疑問等に答えるとともに、ご協力いただく方へ同じ質問内容を繰り返し聞くことで、新バスシステム事業に対する意識の変化を把握するべく、実施する調査です。

■調査の概要

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：新潟市の住民基本台帳において、平成 26 年 4 月 1 日時点で 16 歳以上の市民
- (3) 送付人数：5,270 人
- (4) 抽出方法：電子計算機マスターファイルからの等間隔抽出
- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (6) 第 1 回調査期間：平成 26 年 11 月 19 日～平成 26 年 12 月 1 日（消印有効）

※本結果は、12 月 1 日消印のご返送分で集計しています。

※各設問で有効回答者数が異なりますので、回答者数が設問ごとに異なります。

▶意識調査の回収結果

- ▶年齢別の回収率は、高齢者であるほど高い傾向にあり、特に 65 歳～74 歳の回収率が最も高いです。
- ▶区別の回収率は、西区が最多であるものの、区別で大きな差は見られません。

	回収数	発送数	回収率		回収数	発送数	回収率
10 歳代	44	194	22.7%	1. 北区	168	500	33.6%
20 歳代	132	601	22.0%	2. 東区	309	900	34.3%
30 歳代	220	789	27.9%	3. 中央区	432	1,191	36.3%
40 歳代	281	874	32.2%	4. 江南区	160	449	35.6%
50 歳代	319	738	43.2%	5. 秋葉区	184	500	36.8%
60～64 歳	219	465	47.1%	6. 南区	101	300	33.7%
65～74 歳	426	846	50.4%	7. 西区	417	1,050	39.7%
75 歳以上	260	763	34.1%	8. 西蒲区	130	380	34.2%
総計	1,901	5,270	36.1%	総計	1,901	5,270	36.1%

▶主な交通手段

▶主な交通手段では、自動車の利用者が 3/4 を占め、次いでバス (8.1%)、自転車 (7.9%)、電車 (4.3%) となっています。

交通手段	有効回答者数	割合
1. 自動車	1,344	75.4%
2. 電車	77	4.3%
3. バス	145	8.1%
4. 自転車	141	7.9%
5. 徒歩	48	2.7%
6. 原付・自動二輪	9	0.5%
7. その他	18	1.0%
総計	1,782	100%

▶バスを利用する頻度

▶バスを利用する頻度として、「ほとんどつかわない」「まったくつかわない」という回答で約 7 割を占めます。

バスを利用する頻度	有効回答者数	割合
1. ほぼ毎日 (週に 5～7 日程度)	84	4.4%
2. 週に 3～4 日程度	55	2.9%
3. 週に 1～2 日程度	94	5.0%
4. 週に 2～3 日程度	173	9.1%
5. 週に 1 日程度	212	11.2%
6. ほとんどつかわない	792	41.8%
7. まったくつかわない	486	25.6%
総計	1,896	100%

▶新バスシステム事業への考え

▶賛成側の意見を示した方が約 14%、反対側の意見を示した方が約 60%でした。

新バスシステム事業を進めることに対する考え方	有効回答数	割合
1. 賛成	99	13.9%
2. どちらかといえば賛成	158	
3. どちらでもない・わからない	487	26.4%
4. どちらかといえば反対	464	59.7%
5. 反対	637	
総計	1,845	100%

▶バスを利用する目的

- ▶バスを利用する目的として、「通学」、「通勤」、「病院・医療施設へ行く」、「日常的な買い物（食料品・日用品など）」という日常生活に欠かすことのできない移動が 20%を占めます。
- ▶回答として最多であったのは「社交・娯楽・食事など」で約 30%を占め、日常に欠かすことのできない移動と合わせて約半数を占めます。
- ▶一方で、「つかわない」と回答した方も約 36%を占めます。

バス利用目的	有効回答数	割合
1. 通学	23	1.3%
2. 通勤	135	7.4%
3. 業務	28	1.5%
4. 病院・医療施設へ行く	140	7.7%
5. 日常的な買い物（食料品・日用品など）	65	3.6%
6. 非日常的な買い物（衣服・電化製品・贈り物など）	107	5.9%
7. 知人などの家へ行く	34	1.9%
8. 社交・娯楽・食事など	522	28.6%
9. 習い事	27	1.5%
10. つかわない	647	35.5%
11. その他	95	5.2%
総計	1,823	100%

▶まとめ①

- ▶今回の意識調査においては、65 歳～74 歳の方の回収率が 5 割を超える一方、年齢層の低い世代の回収率が低い傾向です。
- ▶主な交通手段として、自動車利用者が 3/4 を占め、またバスをほとんどつかわない、まったくつかわない方も約 7 割を占めるのに対し、公共交通の利用割合は低い値です。
- ▶一方バス利用目的の 2 割は日常に欠かすことができず、また社交や娯楽、食事での利用も多数を占めるなど、バスが生活に密着した移動手段であることも確認できます。

▶新バスシステム事業の効果や期待の内訳

- ▶効果や期待として最も大きな理由は、「車を使えない人や高齢者の外出する機会が増える。」が多く、次いで「今後もバス交通が継続していけるようになる。」「連節バスなどにより、まちや公共交通のイメージが変わる。」「まちの活性化につながる。」「JR新潟駅や白山駅の整備と連携することで、電車とバスが乗り継ぎしやすくなる。」でした。
- ▶新バスシステム事業は、郊外のバス路線が増便されることや、バスの走行キロ数が維持され、減便に歯止めがかかることなど、郊外にもメリットがあることをまだまだ伝えきれていないことがわかりました。
- ▶その他の理由を見ると、新たに「バス路線が増便される。」ことが5番目に挙がるなど、路線の増便について一定の理解があることもわかりました。

理 由	最も大きい理由(◎)			その他の理由(○)		
	有効回答数	割合	順位	有効回答数	割合	順位
1. 今後もバス交通が継続していけるようになる。	107	16.5%	2	108	8.8%	4
2. 連節バスなどにより、まちや公共交通のイメージが変わる。	107	16.5%	2	129	10.5%	2
3. まちの活性化につながる。	70	10.8%	4	117	9.6%	3
4. 車を使えない人や高齢者の外出する機会が増える。	115	17.8%	1	170	13.9%	1
5. バスの利用が増える。	24	3.7%	8	85	6.9%	7
6. 新規路線ができる。	13	2.0%	11	61	5.0%	11
7. バス路線が増便される。	30	4.6%	6	91	7.4%	5
8. 自分の利用するバス路線が増便される	23	3.6%	9	31	2.5%	13
9. バスの走行キロ数が、約5年間は維持することができ、減便に歯止めがかかる。	5	0.8%	14	30	2.4%	14
10. 都心部のバス停がわかりやすくなる。	25	3.9%	7	75	6.1%	10
11. JR新潟駅や白山駅の整備と連携することで、電車とバスが乗り継ぎしやすくなる。	32	4.9%	5	84	6.9%	8
12. バスの最終便が遅くなる。	11	1.7%	12	80	6.5%	9
13. 公共交通の空白区域の広がりを抑えられ、区バスや住民バスの充実につながる。	18	2.8%	10	88	7.2%	6
14. 運行事業者の経営が改善し、バスサービスが向上する。	7	1.1%	13	52	4.2%	12
小 計	587	90.7%		1,201	98.0%	
15.上記以外の理由	60	9.3%		24	2.0%	
合 計	647	100%		1,225	100%	

▶新バスシステム事業のわからないことや反対する理由の内訳

- ▶わからないことや反対する理由として最も大きな理由としては、「新バスシステム事業よりも他に優先すべき事業がある。」が多く、次いで「利便性が高まるのは都心部だけであり、郊外に効果がない。」、「新バスシステム事業そのものがわからない。」、「新バスシステム事業ではまちの活性化にならない。」、「新バスシステム事業の効果に対してお金がかかりすぎる。」など、新バスシステム事業の優先順位が低いのではないかとことや、事業そのものや連節バスの効果に対する意見が多数を占めました。
- ▶その他の理由を見ても、「新バスシステム事業の効果がわからない。」が挙がるなど、新バスシステム事業の効果が説明できていないことが分かりました。

理 由	最も大きい理由			その他の理由		
	有効回答数	割合	順位	有効回答数	割合	順位
1.新バスシステム事業そのものがわからない。	154	11.3%	3	139	2.5%	14
2.新バスシステム事業ではまちの活性化にならない。	129	9.5%	4	475	8.4%	3
3.利便性が高まるのは都心部だけであり、郊外に効果がない。	171	12.5%	2	462	8.2%	5
4.新バスシステム事業よりも他に優先すべき事業がある。	311	22.8%	1	472	8.3%	4
5.新バスシステム事業の効果に対してお金がかかりすぎる。	121	8.9%	5	491	8.7%	1
6.乗換えによる手間が増え、不便になる。	81	5.9%	6	302	5.3%	10
7.乗換えで雨風にあたる。	3	0.2%	19	52	0.9%	18
8.自分が利用するバス路線が乗換えになる。	12	0.9%	14	67	1.2%	17
9.どのバス路線が乗換えになるかわからない。	6	0.4%	16	129	2.3%	15
10.乗換えによって料金が上がってしまうのではないか。(初乗り運賃を2回払わなければならないのではないか)	6	0.4%	16	123	2.2%	16
11.ダイヤが分からないので不便になるのではないか。	4	0.3%	18	51	0.9%	19
12.新バスシステム事業の効果がわからない。	53	3.9%	8	482	8.5%	2
13.自分が利用するバス路線への効果がわからない。	10	0.7%	15	160	2.8%	13
14.自分が乗っているバス路線が増便されない。	2	0.1%	20	47	0.8%	20
15.連節バスの購入費が高すぎる。	40	2.9%	10	411	7.3%	7
16.連節バスの効果がわからない。	42	3.1%	9	448	7.9%	6
17.雪が降ったとき、連節バスが安全に走れるのかわからない。	19	1.4%	13	198	3.5%	12
18.連節バスが渋滞の原因になる。	28	2.1%	12	316	5.6%	9
19.区バスや住民バスの充実が先。	59	4.3%	7	391	6.9%	8
20.新バスシステム事業の進め方に懸念・不満がある。	33	2.4%	11	274	4.8%	11
小 計	1,284	94.2%		5,490	96.9%	
21. 上記以外の理由	79	5.8%		173	3.1%	
合 計	1,363	100%		5,663	100%	

▶新バスシステム事業の賛否について（主な交通手段別）

▶公共交通（電車・バス）を利用する方は、それ以外の交通手段をつかう方と比較して賛成側の意見が多く、反対側の意見が少ない傾向にあります。

有効回答数 N=1,735	賛成	どちらかといえば 賛成	どちらでもない ・わからない	どちらかといえば 反対	反対	総計
1.自動車	4.8%	8.0%	25.6%	25.2%	36.3%	100%
	12.8%			61.5%		
2.電車・バス	7.4%	15.7%	22.7%	22.7%	30.1%	100%
	23.1%			52.8%		
3.自転車	5.8%	6.5%	33.8%	29.5%	24.5%	100%
	12.2%			54.0%		
4.徒歩	8.7%	6.5%	30.4%	28.3%	26.1%	100%
	15.2%			54.3%		
5.原付 ・自動二輪	0.0%	12.5%	37.5%	12.5%	37.5%	100%
	12.5%			50.0%		
6.その他	11.1%	5.6%	50.0%	11.1%	22.2%	100%
	16.7%			33.3%		
総計	5.4%	8.8%	26.5%	25.1%	34.2%	100%

▶新バスシステム事業の賛否について（バスの利用頻度別）

▶バスを月に1日程度以上つかう方は、つかわない方と比較して賛成側の意見が多い傾向にあります。

有効回答数 N=1,841	賛成	どちらかといえば 賛成	どちらでもない ・わからない	どちらかといえば 反対	反対	総計
1.月に1日程度以上 つかう	8.8%	10.8%	26.6%	25.3%	28.5%	100%
	19.6%			53.7%		
2.ほとんどつかわない	3.6%	9.6%	25.6%	27.8%	33.4%	100%
	13.2%			61.2%		
3.まったくつかわない	3.8%	4.0%	27.4%	20.2%	44.5%	100%
	7.9%			64.7%		
総計	5.4%	8.6%	26.4%	25.0%	34.6%	100%

▶まとめ②

- ▶新バスシステムは、郊外にもメリットがあることをまだまだ伝えきれていません。
- ▶若年層は、車を使えない人や高齢者の外出する機会を増加させることに特に期待をしています。
- ▶高齢者層は、まちに与える効果について特に期待しています。
- ▶新バスシステムの開業時点で特に路線の集約・増便効果の大きい区（中央区・南区・西区）では、バス交通の持続可能性について特に期待をしています。
- ▶古町方面への乗り継ぎが発生する北区や東区でも、連節バス車両に対する期待をしています。
- ▶新バスシステム事業を反対する理由として、事業の主旨・目的や事業の優先順位が低いこと、効果がわからないことが多く挙がりました。
- ▶一方で新バスシステムの賛否については、鉄道を含めた公共交通の利用者や、バスをつかう頻度の高い方が他に比べ賛成側の意見を多く示しています。

▶総括

- ▶皆さんがどのような点に疑問や懸念を持っているかを把握するものとして始めた調査で、今回は特に以下の2点にわからない点や反対の理由があることがわかりました。
 - ①新バスシステム事業の優先順位が低いのではないか。
 - ②新バスシステム事業、及び連節バス導入の目的や効果がわからない。
 この2点について、2回目の意識調査では特に重点的に説明をいたします。
- ▶公共交通を利用する方と利用しない方、バスを利用する方と利用しない方で、回答の傾向が異なることがわかりました。
- ▶新バスシステム事業に関する効果や期待することについて、区ごとに特色があることがわかりました。